



「学園での研究活動の強化と寄付のお願い」

学園長 宍戸 弘明

① 寄付のお願いと書くと、学園はOBに何時もたかることばかり考えていると顔をしかめられるかも知れません。そうされる前に学園・協会が一体どんなことを考え、行おうとしているのか知っておいて頂きたいのですが。

今の学園は色々な問題を抱えています。が、そうした中でこれから力を入れなければと考えているのが、学生を含めて研究活動の充実なのです。その理由は次の二点です。

① 四年制に移行して、大学に劣らない授業、実習を目指しているのですが、それには最新の学術レベルの習得と実習への活用が前提となります。大学が教育ばかりでなく、研究活動を重視しているのはこうした理由からですが、学園も同じことです。知識だけでなく、最近はやりのIT(情報技術)の利用でよいかも知れませんが、科学技術の分野では、自ら実践しなければ無理です。三、四年生の卒論研究でも同様です。

② 皆様方にはあるいはご存じないかも知れませんが、学園を経営する農民教育協会は財団法人の中でも特に、試験研究についての「特定公益増進法人」に認定されていて、ここへの寄付者(法人を含む)へ税制上の特典があります。創立五十周年の記念事業の際にご利用された方もいらしたかと思いますが、また、農業団体から毎年多額の支援を頂いていますが、こうした特典もそれを支えている要因です。

二年毎に特定公益増進法人の審査があるのですが、前回の審査で「協会への寄付者が特定の団体のみに固定されていて、広く寄付を募るという特定法人の趣旨にそぐわない」と指摘され、このままでは認定が近いうちに取り消される可能性があります。

こうしたことから、学園では①に対応して大きな研究プロジェクトとして(1) 環境保全・循環型農業の確立のための実証的研究

畜産農場、園芸農場、寮(食堂)を持つ学園の条件を生かして、実証的に循環型農業の確立を目指しながら、その生産物を食品としての視点から評価しようとするものです。

(2) 農業担い手育成教育の検証的研究
学園本来の目的である後継者育成について、本科卒業生ばかりでなく、就農準備校で学んだ者を含めて細かく就農の条件を検証しようとするものです。

以上の二課題について全学的に取り組

財団法人農民教育協会への寄付のお願い

財団法人農民教育協会

理事長 二瓶 博

財団法人農民教育協会は農村社会の有為なる形成者の養成及び農村指導者の研修を目的として、昭和二十三年に設立されました。

設立以来今日まで、本会はこの目的を達成するために、鯉淵学園(茨城県東茨城郡内原町)を設置し、学園において、その教職員と施設のもとに人材の養成とともに農業(生活栄養を含む)に関する調査試験研究事業等を推進してまいりました。

特に最近における調査試験研究としては、木酢液使用による低投入・高品質農業生産実験、テングス病及び萎縮病ファイトプラズマのヨコバイによる伝搬の研

むことにしました。
また、②の問題に対応して、協会では後に記すような研究支援のための募金趣意書を作り、広く各界に協力を仰ぐことにしたのです。

同窓会の皆様にもご協力を頂きたいのですが、単に寄付ということではなく、むしろ学園に研究を委託して(必ずしもすべてを引き受けることはできないかも知れませんが)、その見返りとして寄付をするということも考えられますが、いかがでしょうか？

研究、海外の土壌との比較によるわが国土の特性研究、核移植等の酪農研究、新生子牛と母牛の血清及び初乳中の免疫グロブリンの動態研究、リンと窒素低減化のためのフィチン酸とフィターゼ研究、農民教育における情報利用研究、農民の就農行動研究、トマトの缶詰・瓶詰及び冷凍等加工利用と調理方法に関する研究、乳廃牛利用によるサラミソーセージ製造技術の研究等広範な分野で研究を行っております。これらの研究成果は報告書にまとめ各方面にお送りするとともに、各種学会・専門誌等への発表をできまして、今後は、学園のホームページへの掲載等も行っており、一層広く一般の活用に

供して参りたいと考えております。
 当会では、このような試験研究事業を一段と積極的に展開することによって、農業の健全な発展、地域社会の健康で豊かな生活の実現とこれらを担う有為なる人材の育成に向けて、さらに努力致したいと念じております。
 つきましては、誠に恐縮に存じますが、当会設立の趣旨並びに活動にご賛同賜り、当会の事業推進のために関係各位のご協

寄付金募集要領

- (一) 募金の名称
財団法人農民教育協会（鯉淵学園）の農業（生活を含む。）に関する試験研究事業推進のための寄付金
- (二) 募金期間
平成十二年五月から
- (三) 寄付金の使途
農業（生活を含む。）に関する試験研究事業推進のため
- (四) 税制措置
「特定公益増進法人」として農林水産大臣の証明を受け寄付者に対する所得税法上及び法人税法の特別措置適用
- (五) 寄付金申込先
財団法人農民教育協会
東京都北区西ヶ原一―二六―三
または、鯉淵学園
〒三一九一〇三三三
茨城県東茨城郡内原町鯉淵五九六五
※下記の寄付申込書を、利用されファックスでの申し込みでも結構です。
FAX番号 財団法人農民教育協会
〇三―三九一〇―七〇二八
または鯉淵学園
〇二九―二五九―六九六五 でお願ひ致します。
- (六) 振込方法
次の銀行の財団法人農民教育協会の口座にお振込みください。
農林中央金庫 大手町営業部
口座種目 普通預金
口座番号 〇〇二六六五〇
口座名義 財団法人農民教育協会

寄付申込書

平成 年 月 日

財団法人 農民教育協会
 理事長 二瓶 博

住 所 _____

御 芳 名 _____

財団法人農民教育協会の行う特定公益増進事業のための寄付金として、下記のとおり寄付を申し込みます。

記

金 _____ 千円也

今後の連絡先をご記入ください。

所属・役職 _____

電 話 _____

力を仰ぎたく、特段のご配慮をお願い申し上げます。
 なお、当協会は所得税法及び法人税法に係る「特定公益増進法人」として農林水産大臣の証明を受けております。した

がいまして、ご寄付いただきましたものにつきましては税法上の優遇措置がとられることになっておりますので申し添えます。
 平成十二年五月吉日

分収林視察結果報告

平成十年五月十一日に実施した第二回分収林成育調査から二年が経過し、その後の成育状況確認のため五月二十日に分収林現況視察を実施した。

当日、午前十時三十分には学園集合し、学園のマイクロバスで日立市小木津の国有林に向け出発、現地では分収林管理協力者の益子駿一氏（茨城14期）の案内で、スギ、ヒノキ成育状況を視察した。隣接する同時期に植林された分収林と鯉淵学園同窓会の分収林とは比較にならないほど差の歴然とした林相を拝見し、育林ならびに国土保全の重要性を再認識すると共に管理協力頂いている益子氏に一同感謝を申し上げ、分収林を後にした。後の常任委員会において、育林・国土保全



の観点から、学園の教育材料の一つとして取り入れられないか、学園に検討して頂くことにした。

なお、今回の現況視察参加者は以下の通りである。

- | | | | |
|-----------|-------|-----|------|
| 会 長 | 高橋 隆三 | 茨城 | 9 期 |
| 副会長 | 倉重 一夫 | 茨城 | 11 期 |
| 〃 | 住吉 達男 | 東京 | 17 期 |
| 常任委員 | 北村 康祐 | 神奈川 | 2 期 |
| 〃 | 大竹 勝次 | 栃木 | 14 期 |
| 事務局長 | 本宮 好美 | 茨城 | 12 期 |
| 管理協力者 | 益子 駿一 | 茨城 | 14 期 |
| 副会長兼常任委員長 | 山本 英治 | 茨城 | 31 期 |

（文責 山本英治）



学園の近況報告と学生募集協力をお願い

教務部長 安藤 義道

梅雨の季節となりましたが、今年の常陸野は五月に二度ほど雹が降ったりして、少々気象が不安定です。農業に携わる者としては安定した天候を望まざるをえません。

一〇二名が卒業

三月十六日に平成十一年度の卒業式が挙行され、農業経営科学科作物園芸コース四九名、同経営流通コース二三名、同畜産加工コース一六名、生活栄養科学科三三名の合わせて一〇二名が新たな社会の一員として巣立っていきました。あいにく雨模様の天気でしたが、みんな多くの思い出を残して雨にも負けず学園を後にしていきました。変わったといえよこの数年は卒業記念品の贈呈がなくなりました。学園が豊かになったためでしょうか。

一〇二名が入学

卒業生に代わって新たに学園の仲間入りをした平成十二年度の入学は農業経営科学科が六八名、生活栄養科学科が二五名、三年編入が九名の合わせて一〇二名でした。出身県別で多いのは新入生では茨城県が一四名、山形県が八名、東京都が七名といったところです。今年も親が同窓生という方三名をはじめ卒業生の

みなさんのご紹介による入学者が多々ありました。改めて御礼申し上げます。

学内LANが整備

近々学園内どこでもインターネットができる学園ネットワークシステムが完成します。授業料も国立の大学並と経営努力もしています。優秀な先生方も大勢います。どうか地元の高校生を学園にご推薦下さい。お待ちしています。連絡は電話（〇二九一二五九一二八一）、FAX（〇二九一二五九一六九六五）、Etp://www.sphere.ad.jp/kobuchi/どうぞ。



平成十二年度 鯉淵学園人事異動

【依願退職】

参事・事務部長 池田 義男

嘱託教授 丸山 朝由

技師補 松本 光永

【採用】

参事・事務局次長 磯崎 夕爾

参事・事務部長 児玉 進

教授 堀田 弘

“ 相井 孝允

技師 中澤 明男

技師補 中村 哲三

主事補 小野寺 美香

“ 川島 オリエ

《自己紹介》

児玉 進

初めまして、この四月から池田事務部長の後任として来ました児玉進です。よろしくお願いたします。出身は広島県福山市駅家町（鯉淵と同じくらしいの田舎です）。

以前の住居はつくば市、埼玉県大宮市、三重県津市、栃木県の西那須野町及び那珂郡大宮町とほとんど二年置きに変わりました。農水省関係機関の職場がほとんどで、それ以外では一九九八年四月から二〇〇〇年三月の間、特別認可法人生物系特定産業技術研究推進機構に在籍したことです。

趣味はスポーツ系で、野球、テニス、卓球及びゴルフと言ったところで、それ以外では海釣り、音楽系では演歌（どが付く）及びお酒を飲むこと等多趣味であるが故に、これと言って上手なものはありませんが、スポーツ系でお相手をして下さる人が居れば幸いです。

鯉淵は私の田舎に良く似ているので親しみを感じております。

学園に来て早二ヶ月が過ぎましたが、全てが新しい仕事で目の前の事のみ一生懸命で寡黙になっています。皆さんの足を引っ張って居りますが、今の所私の周りの全職員等の方々が、良い人ばかりなので安心し、時々トイレで「ほっ」が出来るようになりました。

今後は一日も早く職場に慣れ、皆さんと一緒に頑張れるよう努力致しますので、今後ともなお一層のご指導の程よろしくお願致します。

堀田 弘

平成十二年四月から鯉淵学園に勤務することとなりました堀田弘です。私は、昭和三十五年三月に鯉淵学園（15期生）を卒業いたしました。その後、茨城県職員として農業改良普及センターで普及活動に従事。農業行政では、水田農業経営確立推進に従事。そして、専門技術員室

では、果樹専門技術員としてクリ・ナシの生産振興に従事しました。二回目の専技室では普及担当として、普及員の普及活動支援に従事しました。そして、平成十二年三月、茨城県下館地域農業改良普及センター長を最後に退職しました。

この四月から、鯉淵学園教務部・農業経営科学科で、普及専攻生の農業普及論・普及実習等を担当しております。

私が四十年前に鯉淵学園を卒業した当時、後輩を指導するなど夢にも思わなかったことでした。非常に名誉なことと思っております。

学園生が、これからの日本農業・農村社会を担っていく糧として、希望を持って学園生活が送れるよう微力ではありませんが努力して参ります。

我々の学生時代と現在を顧みれば、数多くの変貌と発展を遂げております。当時の面影を残す施設は少なく、四学年制になり学生数も倍以上となっております。そして、親子二代に渡り学園で学ぶ学生が見受けられることです。

ところで、今でも変わらないものに鯉淵精神が健在です。これからも学園生には、どの様なことにも負けない精神力と根性を持って、携わって欲しいと願っております。

最後になりましたが、これからも学園の発展のために、初心に振り返って参ります。同窓生の皆様からのご支援・ご協力を賜りますようお願いして、誠に簡単ですが挨拶に代えさせていただきます。

相井 孝允

農林水産省に三十五年間勤める後、今年（二〇〇〇年）四月から鯉淵学園にお世話になっております。長年、酪農の試験研究に従事していましたが、現在、学生には家畜生理学を教えており、また、畜産実験の指導も行っています。後期からは、さらに家畜栄養学と飼料作物学を教える予定になっております。

過去に、九州、中国および四国の各農業試験場に勤めましたが、その間、特に関心があり気懸かりであったことのひとつは、農家の後継者問題でありました。各試験場の後背地には「高齢化・少子化・過疎化・農地放棄・嫁不足」などの言葉が共通のキーワードである中山間農村があり、そのため具体的な後継者問題をよく耳にしました。

農業に係わる仕事をされる者にとっては、この問題解決からの回避は不可能でありましたが、小生自身の力不足や問題解決の能力に欠けるために、そのままずるずると何もせずに過ごして参りました。

現在、鯉淵学園の畜産・加工コースの学生の約半数以上は畜産農家出身であり、そのほとんどは当然のこととして卒業後は畜産をやることを心に決めております。また、非農家出身の学生も当面は農業関連の仕事に就くが、将来は農業（畜産）を自前で作ってみる意志を強く持っております。

将来、畜産農家の主人や主婦として羽

ばたいていく若い学生に、畜産関連の課目の教授を通じて少しでも応援してやる事が出来るのではないかと思ひ、学園に勤務してから三か月ばかりの短い期間ではありますが、そのことに少し生き甲斐を感じております。

日本農業の将来には、スッキリと見通

支部・同期の動向

茨城県支部だより

一、卒業期別代議員の互選について

茨城県支部では、会員が八〇〇人を越えたことから平成十一年度総会から卒業期別代議員総会制を採用しました。

十一年度の代議員は同窓会茨城県支部役員会で推薦し会報を通じて承認されましたが、十三年度総会から期別の皆さんに代議員を互選していただくことになっております。

十一年度の代議員が中心になり十三年二月頃までに次期代議員を選任し事務局まで報告して下さい。

次期代議員は平成十三年総会の出席から十四年までの任期です。連絡がない場合は十三年度、十四年度も引き続きお願いすることになります。よろしくお願ひいたします。

すことが出来ない不透明なところがあり、そのため不安なところもありますが、全国各地で活躍する諸先輩のご協力と力添えにより、この不安を払拭し、学生の教授に当たりたいと考えておりますので、よろしくお願ひします。

茨城支部長 倉重 一夫

二、終年会費五、〇〇〇円の納入のお願ひ

茨城県支部の財政を確立するため、十一年度総会で終年会費五、〇〇〇円に決定いただきました。

これまで年一、〇〇〇、二年まとめて二、〇〇〇円ずつ納入いただきましたが、一回で完了する終年会費に改めました。別紙振替用紙で十二月までに納入下さいますようお願いいたします。なお、分割納入もお受けいたします。

口座番号

〇〇三七〇一〇一一九二七

鯉淵学園同窓会茨城県支部

“十一期生活科の恩師を囲む感謝の会”

◆平成十二年五月十三日～十四日

◆会場①北茨城市 としまや月浜の湯

②オレンジの丘

◆(及川徳江氏(十一期生)経営)

◆出席者 十一期生八名

恩師 白田喜代志先生

松川 茂先生

写真説明

前列左側から

三次えい子、松川先生、白田先生

後列左側から

野口美千代、鹿又ワカ、野内甲子

島村多恵、加藤定子、吉谷富美子



お互いに第二の人生を歩み始めて時間のゆとりが出来たところで、学生当時に学業は勿論のこと生活面でも大層お世話になった両先生を懐かしみお招きしました。

白田先生は、有機栽培にかける情熱を説かれ、松川先生は、オレンジの丘でのパンづくりの技をふるわれるなど、恩師のお元気な姿に接して感激いたしました。寮歌を歌い、又の再会を約束しました。

京都府支部総会

◆平成十一年十月三十日(土)

◆八木町 八光館

◆支部長 藤井文信④

◆出席者 一六名(写真参照)

◆総会に先立ち、27期の松崎忠嗣氏の農業経営状況を見学

◆会議内容

事業・会計報告、役員改選等

京都府支部総会は、平成十一年十月三十日に、京都府八木町で開催されました。当支部では奇数年の隔年に総会を開催する旨の規約の規定により開催されたものです。

さて、総会は一六名の参加にとどまりましたが、最近の傾向(日十年一五名、日七年一九名、日五年一四名)からすれば、まずまずの出席でした。

今回の特徴は、総会に先立ち同窓生の経営状況を見学する機会を作ってみました。

とです。結果として今回の企画はおおむね好評で次回以降の参集に大いに参考となりました。

役員改選では、後継者に対する根回しができなかった事もあり、現在の役員が

写真説明

前列左より

竹村敬子^⑩、吉田淑子^⑪、吉崎篤子^⑫、藤井文信^⑬、和田和子^⑭、木村隆^⑮、上山重晴^⑯

後列左より

岡本嘉明^⑰、金田裕章^⑱、加藤紀一郎^⑲、竹村洋一^⑳、松崎中吉^㉑、稲上知^㉒、片山茂^㉓、正木明^㉔、中西栄吾^㉕



日十三年まで引き続き担当することになりました。

支部長 藤井文信^④

副支部長 正木明^⑫

幹事 野村徹志^⑮

竹村敬子^⑩

岡本嘉明^⑰

和田由子^⑭

支部総会の結果報告

京都府支部総会は、去る十月三十日に船井郡八木町で開催されました。

昨年に続いての総会開催ということで参加者の減少が懸念されましたが、一六名の方々が参加されての一日を過ごすことができました。

総会に先立ち、開催通知でもご案内しましたように今回は同窓生の活躍ぶりの実態を見学する企画を建て、27期の松崎さんのお宅にお邪魔して農業経営の様子を見学しましたので、総会の結果報告の前にその模様を少し報告いたします。

松崎さんのお宅は、JR八木駅から途中亀岡市内、京都市内を通過して車でおよそ三十分、標高三五〇メートルの地に拓けた小盆地、神吉地区にあります。

従来この地域は林業の盛んな地域で、松崎さんのお宅の経営規模は、山林一五ヘクタール、水田二・三ヘクタールですが、木材の不況と水田の転作から平成四年にハウス三〇アールを建てて京野菜の「みずな」、「九条ねぎ」の栽培を採り入

れ、平成九年からは奥さんの希望もあって、「トルコギキョウ」の切り花も導入されました。

松崎さんは、「京野菜の栽培は普及セクター、農協の技術者が頻りに来られるのですが、トルコギキョウについては同僚もなく、技術面でも確立されていない点もあって苦労しています。幸い長野県と同窓生もトルコギキョウを栽培していますので、妻と一緒に掛けて勉強中です。」とのこと。「農家に嫁いでも農業はしない」と云っていた奥さんも、トルコギキョウを始めからは積極的になられたとか、お二人の笑顔が印象的でした。

さて、総会は事業報告、会計報告が行われ、事業報告では、
①平成十年の総会が福知山市で開催
②支部だよりの発行二回
③役員会の開催一回
④学園進路活動協力委員の推薦（16期の竹村さん、21期の岡本さん）が報告されました。

④の委員については本年十月現在で十三支部しか推薦報告されていない状態ですが、既に竹村さんに在校生から問い合わせがあり、二・三の方とも相談して応えた由、今後竹村、岡本両氏から連絡があれば協力をお願いします。

会計報告では、残高一・一、五五九円が報告されました。
役員改選では、支部長から「現役員が後任について次回の総会（平成十三年）

までに候補者を選出することとし、その間は現体制で運営したいと考えている」旨の提案があり、全員賛成。現役員が引き続き役員に留まることとなりました。

出席者の一言

今回も初めての出席者が二名ありました。懇親会では一言ずつ自己紹介が…。和田^⑭…いつも一番下の後輩です。出身は高知ですが、もうすっかり京都の人になりました（独身です）

木村^⑮…出身は雲原ですが、今は正木さんのスカイランドの近くに間借りしています。参加は二回目。
松崎^⑫…学園が二年制から三年制にかわったときなので、最上級生を二年経験しました。総会参加は初めてです。

中西^⑰…酪農、ハウス、水田の経営をやっています。総会は初めてです。
吉崎^⑫…福知山普及センターから舞鶴に転勤して三年半、22期の橋垣さんには時々会っています。今日のことには伝え

ます。
岡本^⑰…夜久野に温泉が出た。都市農村交流ということで「農匠の郷」なるものができている。その丹波漆やくの館で体験実習の世話役など。

竹村^⑩…現在岩手県にある東北農政局北上土地改良調査管理事務所勤務、（支部総会参加のため）昨夜帰宅しました。
加藤^⑱…久々の出会で喜んでいますが、こんな格好（ヒゲ）ですがプロイラー

をやっています。

吉田⑩…十年あまり勤めた後、家と子供の面倒をみています。目下日吉の主人の実家への通勤農業です。

竹村⑪…最近マダラボケ(時々物忘れする)になってきました。何時も作業服姿なので、今日は装いを正して女性であることを松崎さんのお父さんに見せたのです。

上山⑫…営農指導員を茨城で三年、大江町で十年やりました。農業が好きで今もメッシュの入った野菜を作っています。

正木⑬…六十三歳になりました。若いパワーに期待しています。木村君がすぐ近くに居るのを知ってびっくり。

片山⑭…今年初めて一・五反の米作りを始めました。昨年26期の安井君に初めて会い、早速堆肥を貰いに行ったり、まあ農業見習いということをやっています。

藤井⑮…今年から菊作りに挑戦しています。思うようにできませんので、教えて下さる人を探しています。

金田⑯…同窓会報の五十九〜六十一号に思い出を書きましたが、そういうことを知らせることも義務だと思っています。野菜作りをして孫に教えたり、パソコン通信で楽しんでます。

稲上⑰…ようやく暇がとれるようになりましたので、夫婦そろって趣味に生かしています。(奥さんは二科展へ)

東京都支部総会

新春講話開催される

平成十二年一月二十九日(土)家の光飯田橋レインホール「レストラン耕」において会員一八名出席のもとに平成十二年支部総会並びに新春講話が開催された。

総会開催に先立ち十五時〇〇分から鯉淵学園浦井義助教授による「鯉淵学園をとりまく状況とこれからの学園教育」についての講話が行われた。この講話は前年度(入江助教「最近の食生活と生活栄養教育について」)に引き続いて行われたものである。

講話要旨は紙面の関係で省略しますが、講話終了後質問、意見交換が行われた。主なものは学園の財政、資格の問題、農協関係へのアプローチと宣伝のあり方、農業大学校との関係、学生に目標を持たせる等多岐にわたりたいへん有意義な講話であった。

引き続き支部総会が開催され、活動報告、活動方針が協議された。

協議事項

- 一、同窓会本部活動報告
 - 二、平成十、十一年度支部活動及び会計報告
 - 三、平成十二、十三年度活動方針について
- (1) 会員の親睦と「講話」の開催
- (2) 学園の学生進路活動、学生募集の

協力について

① 学生進路活動協力 具体的には「学生進路活動協力委員」を推せんし協力をはかる。

② 学園学生募集への協力
都内高校訪問、書店の大学案内展示コーナー等協力をを行う。

(3) 首都圏支部の集い
埼玉県、千葉県、神奈川県各支部と協議のうえ取り組みをすすめる。

(4) 支部名簿の発行
会員の転居、帰郷等による移動が他の支部に比較して多く、会員間の連絡等が取れない状況がみられることから隔年毎に支部名簿を発行することから活動報告及び活動方針について協議し、原案どおり承認された。

四、平成十二、十三年度の役員選出について
執行部から役員の選出について、前期役員の留任と本部常任委員に44期の富岡忠明支部事務局長を推せん提案説明があり、協議のうえ原案どおり承認された。

新支部役員及び学生進路活動協力委員

支部新役員	
顧問	2期 小口 芳昭
	3期 和田 文雄
	3期 佐藤 三郎
支部長	17期 住吉 達男
副支部長	19期 大原 俊雄
事務局長	44期 富岡 忠明

幹事

2期	森安 一夫
4期	金子 晋
5期	宮本 良隆
9期	白土 忠男
10期	工藤 忠
11期	宮地 勉
16期	土方 貞信
26期	伊藤喜代治
45期	中田 紀博

学生進路活動協力委員

農業経営学科	17期 住吉 達男
生活栄養学科	31期 奥野 恵子

なお、次回の総会は、十二月の寒い時期を避け暖かい春、秋に開催する提案がありました。総会終了後懇親会に移り、福丸博房前同窓会長から退任の挨拶があり、引き続き会員各位から自己紹介と近況報告が行われ、和気あいあいの中十八時〇〇分に終了し、次回総会で再会することを誓い閉会した。



第二回十四期生会

幹事 外西俊行、芳賀正美、平石五雄

◆平成十二年二月二十六日(日)

二十七日(日)

十五時〇〇分 同窓会館集合

◆内原町「湯泉荘」

十八時〇〇分 懇親会

○次回は平成十四年花の巻で開催

◆出席者 一九名

一列目左から

古川(旧鶴田)夫人、森本勝士、黒田勝利

二列目左から

(旧佐藤)砂田先生、蓮田豊、畠山ツヨミ

三列目左から

西田貞夫、福良充雄、益子駿一、原崎育弘

平石五雄

大竹勝次、栗林郁人、椎名徹也、加藤謙一、
助田栄一、古川兼一(旧鶴田)、芳賀正美、
漆沢貞雄(旧高橋)



十二期生会

桜満開の出雲で開催される

第十二期生会が四月九日、歴史と湖の

町出雲市で開催された。

還暦を過ぎて第一線から退き、いくら

かゆとりができた年代となったため、奥

さんや孫同伴者もいて総勢二四名参加し

た。

学園時代の話題などを夜が更けるのも

忘れて語り合い、翌日は山陰の突端・日



の御崎や宍道湖、出雲大社などを回って
楽しい一日を過ごした。

写真説明

上段 福田、中村、高松、三徳、六角

(三徳夫人)、城本

中段 桑原、服部、正木、樫村、川田

若林、鎌田、本宮

下段 山口(孫)、山口夫人、若林夫

人、樫村夫人、石塚、上田、豊
田、横館

東海四県

(静岡、愛知、岐阜、三重)

合同同窓会

◆平成十二年二月十九日(二十日)

十五時〇〇分

◆場所 伊勢市宇治中之切町一五二

神宮会館

◆議題

一、同窓会費について

二、常任委員の推薦

東海支部として新関八千代(23期)

を推薦する。

三、次回開催県

二〇〇一年は岐阜県、二〇〇二年

は愛知県に決定。

四、学園の近況報告

安藤義道教授より報告、説明。



◆出席者 一三名

平石 誤雄⑭

新関八千代⑳

久胡 信隆㉑

石田 利光㉒

花井巳代治㉓

高島 良哉㉔

北川 勝己㉕

高橋喜久夫㉖

奥田 勝己㉗

高津 政巨㉘

渥美 照男㉙

山中 種郎㉚

東山 孝㉛



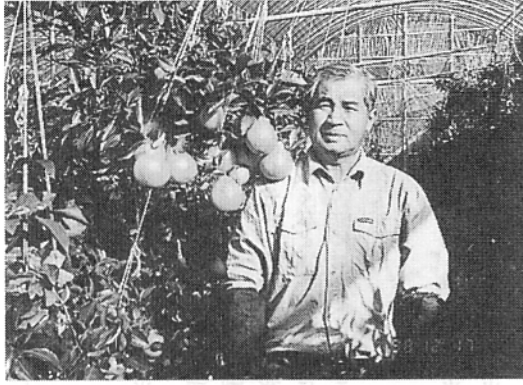
『活動だより』

有機農業による消費者本位のみかんづくり

熊本県(12期) 新田 九州男

私は、熊本県水俣市で有機農業によるみかん栽培をしております。

高校時代からみかん栽培に興味をもち、鯉淵学園卒業後山の斜面を切り開いて開墾し、本格的にみかん栽培に取り組みました。現在は二〇〇アールのみかん畑にいろいろな種類のみかんを栽培しています。



十月から十二月は温州みかん、二月から三月にかけてパールカンや不知火が主な品種です。不知火は清見とポンカン

を交配したもので、とても甘く食べやすい品種です。デコボンの名前で農協を通じて各地に出荷しています。

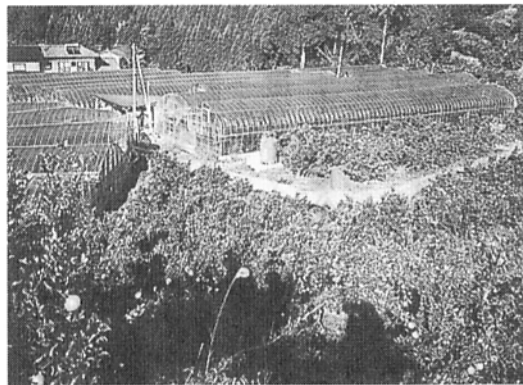
私は、みかんは生のまま直接口に入る果物であるため、消費者の健康を考えて除草剤と殺虫剤は全く使用せず、殺菌剤のみ一年に三回以内に押さえて使用しています。



私は、毒性の強い農薬は絶対に使用しないのでみかんの栽培ができないか研究するため熊本県の有機農業研究会に入会し

て勉強し、七面鳥の放し飼いによるみかん栽培を考案しました。最初は試行錯誤を繰り返しましたが有機農業による栽培を軌道にのせて約二十年近くなります。平成十年十二月環境にやさしい『モノづくり名人』として水俣市から認定書が交付され毎日新聞の地方版にも掲載されました。

これからも家族力を合わせて、消費者に喜ばれる安全でおいしいみかんづくりに努力していきたいと思っております。同窓生の皆様方のアドバイスやご指導をお願いします。



九州方面においての際はぜひお立ち寄りください。



☆同窓会事務局から☆

同窓生がみかん農業が厳しい中で試行錯誤を重ね、自らの手で安全でおいしいみかんづくりに努力しているのを紹介しました。

自宅を訪問するときは留守の場合があるため前もって電話連絡し、本人の了解を得てください。

みかんを希望される方には収穫時期に地方への発送もいたしております。直接左記にご連絡ください。

熊本県水俣市初野四四七二

山口 九州男

電話・ファックス(同番号)

〇九六六(六三)二九一九

哀悼

鯉淵学園名誉教授西村典夫夫人

茨城県支部 西村 英 子^⑩ 平成十二年四月二十九日 逝去

ここ数年来、体調を崩して療養中であった西村夫人は去る四月二十九日に他界されました。同夫人は、鯉淵学園並びに鯉淵学園同窓会の中核として活躍された西村先生を支え、特に同窓会役員を快く家庭に迎え入れて種々の便宜を図って戴くなど、本会の発展に大きく寄与されました。

ここに、会員各位に対しこれらのことをご報告し、謹んで故人のご冥福をお祈りする次第です。
(編集部)

茨城県支部	柴崎 儀 治 ^②	平成十一年九月	逝去
山形県支部	大川 幸 男 ^④	平成十年二月	"
茨城県支部	阿久津 勤 ^⑨	"	"
長野県支部	赤穂 恒 人 ^⑧	平成十一年八月二日	"
埼玉県支部	中島 和三郎 ^①	"	"
岐阜県支部	谷口 三喜夫 ^②	平成十一年六月九日	"

編集部よりお詫びと追加

同窓会報の前号に安藤先生の出版著書の紹介を掲載しましたが、出版社の掲載もれがあり、多くの卒業生からの問い合わせを頂きましたので、ここにお詫びするとともに、追加掲載致します。

『現代農民のライフ・ヒストリーと就農行動』安藤義道【著】

御茶の水書房

〒一一三〇〇三三

東京都文京区本郷五―三〇―二〇

電話 〇三―五六八四―〇七五一

FAX 〇三―五六八四―〇七五三

平成十・十一年度会費納入者名簿【報告】

平成十一年十月一日から平成十二年四月三十日までの払込通知受理分。確認と領収証書代わりの報告です。間違い、ご不審の点はご連絡願います。
また、領収証書が必要な場合はご請求ください。○数字は卒期、括弧数字は通信過程卒期です。

◎年度会費

○十・十一年度分

【北海道】

④ 狩野 康 弘

【岩手県】

(4) 上 澤 利 三 郎

②⑦ 武 田 猛 見

③⑥ 田 口 博 昭

【宮城県】

④④ 遠 藤 弘 司

【長野県】

②③ 佐 原 昭 夫

【栃木県】

②⑦ 飯 村 正 利

【茨城県】

②⑦ 野 村 繁

【兵庫県】

④ 成 定 良 一

【島根県】

②⑥ 堀 川 博

①⑨ 川 崎 武 司

【高知県】

⑤ 横 田 茂 満 佐

【熊本県】

(2) 平 山 秀 文

○十一年度分

【兵庫県】

①⑤ 高 田 修 身

③⑥ 根 岸 秀 明

⑤① 芝 床 靖 人

【埼玉県】

⑨ 島 崎 光 博

六年分 (六)十一年度

○十一・十二年度分

【茨城県】

⑦ 松 田 暄 信

⑦ 中 村 信 夫

○十二・十三年度分

【千葉県】

②⑦ 伊 藤 久 美 子

【宮崎県】

②③ 甲 斐 タ マ 子

◎終身会費

【北海道】

②⑩ 野 村 俊 一

【栃木県】

②⑫ 町 田 千 恵 子



会費納入状況表（大会以降）

平成53年卒業（53期生）

支部名	氏名	摘要	支部名	氏名	摘要
北海道	宿谷 貴博	終身	富山県	宮田 一器	12・13年分
岩手県	高林 真樹江	12年分	長野県	出野 建明	〃
宮城県	佐久間 真紀	12・13年分	岐阜県	熊崎 裕樹	終身
秋田県	伊藤 稔浩	終身	滋賀県	服部 宣之	〃
〃	大塚 貴美	〃	〃	中村 哲三	〃
山形県	小野 勇一	12・13年分	兵庫県	中野 圭治	〃
福島県	山口 幸修	終身	〃	萩原 一弘	〃
茨城県	黒沢 幸代	〃	岡山県	栗坂 公司	12・13年度
〃	横須賀 光宏	〃	広島県	國重 美貴	終身
〃	小松 幸子	〃	山口県	原田 篤志	12・13年分
栃木県	影山 剛	〃	愛媛県	河野 治人	終身
〃	野沢 豊人	〃	〃	中村 秀	〃
〃	古谷 和美	12・13年分	福岡県	井上 健允	〃
〃	川上 護	終身	長崎県	小畑 みゆき	〃
群馬県	関 芳和	〃	鹿児島県	池崎 俊一	〃
埼玉県	石塚 裕和	〃	〃	宇都 多希子	〃
〃	森 重人	12・13年分	沖縄県	中里 尚子	〃
新潟県	浮須 美香	〃			

【その後の便り】

同窓会報六十五号に、23期生 伊藤多恵子さんからの投稿で鳥取県の松岡久子さんの記事を掲載しましたところ、全国から励ましの電話や便りがあり元気づけられたとお便りをいただきました。

鯉淵卒業生のきずなの強さをあらためて実感致しました。

そこで、今号にはその後の便りと23期生の東北大会の幹事の集い『ベゴッコの集い』の記事を掲載し、皆様へのお礼とご報告に致します。

ありがとうございます。（編集部）

二十三期

ベゴッコの集い

皆さんお変わりなくお元気で過ごしてくださいか？

先日、岩手県つなぎ温泉で行われた大会スナップをお届けいたします。すぐ送りたいとは思っていましたが、師走の季節は、何かとお酒が続き、ついつい遅くなってしまうし訳ありませんでした。ベゴッコの集いは、たとえひとときの小さな元気がしの旅とは言え、ベゴッコの仲間達から与えられるエネルギーで、「またがんばるぞ」「みんなに負けずに自分もがんばらなげや」という気持ちにさせられるから不思議な魔力のある集いです。

二日目の午前の部については、私と藤原君の車二台が置いてけぼりとなってしまい、冷麺を食べずじまいとなってしまうのが残念でした。



今回、広報部の八千代さんの格別な計らいにより、久子さんが鳥取からはるお越しになるということで、なつかしい「ネエさん達」も大挙参加してくれて大変楽しいものとなりました。

久子さんの回復ぶりには、本当に感心しましたし安心もいたしました。

ベゴッコの集いの次回は、来年福島県いわき市で（平成二十二年十月二十八日、二十九日）に行われるという情報。全国大会が開催されることから、一年飛んで秋田県が幹事となり、平成二十三年に「角館・田沢湖周辺」での大会開催案が浮上して

いますのでお楽しみに。
次回も、皆様にはぜひご参加されますよう今からお願いしておきます。
では、また！

ベゴッコの集い参加者各位

平成十一年十二月二十一日

秋田県由利郡大内町

葛岡字沢口三十二

堀川喜久雄

今年の一月、同窓会報に鳥取の松岡久子さんの事を紹介していただきましたら、全国各地の友達より、はげましの電話や便りを頂いたとても喜んでいました。あれから頑張って体力をつけた彼女は十二月四・五日岩手県のつなぎ温泉まで足をのびました。これは毎年、十二月の第一の土・日よう日に東北で開かれるベゴッコの集い（23期生の東北大会の時の幹事の皆さんの集い）に特別参加させてもらった訳です。

十二月四日午後、盛岡駅には細川氏が車で迎えてホテルへ直行。一八名が集まり、例のごとく三十年余り前の鯉淵の話に花が咲き、夜のふけるのも忘れる程の盛り上がりでした。

でも松岡さんの回復ぶりには頭が下がります、こちらが元気をもらって帰るハメになった様な次第です。

昨日、別紙の便りと、想い出の写真が堀川氏より届きましたので、松岡さんの回復ぶりを皆さんに紹介したく今回もおくらせてもらいました。

23期生 伊藤多恵子

畜産・加工課（旧・酪農場）畜産教育管理棟新設

畜産コースだった卒業生の方々には、特になじみ深い酪農場の事務所が、その役目を終えた記事は会報六十五号に掲載致しました。

その後着工した新しい事務所が、平成十一年春に『畜産教育管理棟』として完成しましたので、ご報告致します。

場所は旧事務所と同じですが、正面玄関は圃場側で町道に面しており、来客用の駐車スペースも設けてあります。

本来ならば白く輝くばかりの玉砂利を敷き詰めるところではありまじょうが、来客の方の車がスリップされるとお気の毒ということで、あえて粗いガラスを堅く踏みしめてあります。

管理棟は、木造平屋建てで、事務室、土壌・飼料作物分析室（コンピュータに連動している測定機器、実験機材等完備）、実習教室、休憩室、トイレ、シャワー等の設備が充実しております。

昔の愛すべきボロボロで、懐かしのコンクリート床だった事務所をご存じの方には見違えるような変貌を遂げておりませう。

以前、息を止めて用を足した別館個室一室の尿尿保存型トイレも今はなく、自然への還元の道も閉ざされてしまい寂しいことではあります。農業経営科学科の女子学生の増加現象もあり、お陰さま

で一棟の内、男女別々のトイレも整備されました。

シャワー室は一室で男女の別はないのですが、現在に至るまで混浴の状態になったことは一度もありません。

また正面玄関のひだりてには農場職員広瀬氏のきれいな花壇まで設置され新築の建物を飾っております。

事務所が新しくなった事で、職員、学生共々気分を一新し、一層職務、勉学に励んでおります。

学園にお立ち寄りの際、お時間が許すようでしたら一度ご覧になって下さい。

なお、なかなかお時間がとれない方のために写真を掲載致しましたのでご覧下さい。
(編集部)

